

B 118 ポリエスチルおよびポリエスチル混用布のドライクリーニングによる性質の変化  
弘前大教育 羽賀敏雄

目的 ポリエスチル布はそのイージーケア性によって水洗濯が可能と考えられるが、ファッショニ性の高いものについては、風合保全の立場からドライクリーニングを行なうことが望ましいとされている。本研究では差別化されたフィラメント織物を含む各種のポリエスチルおよびポリエスチル混用布についてドライクリーニング処理を行い、この処理による布の諸性質の変化を水洗濯の場合と比較して検討した。

方法 供試試料：いずれも市販品でポリエスチル 100% 布 12種、T/C 混スパン織物 4種、ポリエスチル / トリアセテート混織織物 3種の合計 19種類を用いた。このうち 5種類はたてよこ平均撚数が 2000 以上の強撚糸織物である。ドライクリーニング処理：JIS L 0860 に準じて、活性剤とキャージング水を含むパークロロエタレン浴中でラウンダオメータを用い、40°C で 30 分間処理した。この操作を 5 回繰返した。水洗濯：パークロロエタレンの代りに水を用いた以外はドライクリーニングの場合と同じである。

結果 ドライクリーニング、水洗濯のいずれの処理によっても未処理のものに比べて、伸度、圧縮率などが増大し、剛軟度、通気度は減少した。七検定の結果、二つの処理間に有意差が認められたのは、剛軟度、圧縮率などであり、これらについてはいずれも、水洗濯の方が処理による変化が大きかった。布の諸元を説明変数に、処理による諸性質の変化を目的変数にして、多変量統計解析を行った。いずれの処理においても、伸度の増大とより数との間に高度な相関が見られた。混用による影響は通気度に顕著に現れた。パークロロエタレンの収着による影響は特に観察されなかった。